其他	朝鮮	日本領土	米國	英國	其他
合計	領東	洲各國	仕向品	既濟	合計
	印度	本國	地	國	
					前年度十一月
					本年度十一月

一七七、四一九、〇〇〇弗	二、三八、六一一、三五、〇〇〇弗	四、三六、一一、三七九、〇〇〇弗	三、五四、四二、八三〇、〇〇〇弗	總	東亞煙草株式會社
一七七、四一九、〇〇〇弗	二、三八、六一一、三五、〇〇〇弗	四、三六、一一、三七九、〇〇〇弗	三、五四、四二、八三〇、〇〇〇弗	計	報
一七七、四一九、〇〇〇弗	二、三八、六一一、三五、〇〇〇弗	四、三六、一一、三七九、〇〇〇弗	三、五四、四二、八三〇、〇〇〇弗	計	課

南洋	其他	米國	日本	朝鮮	東亞煙草株式會社
其他	合計	英國	本國	領東	報
南洋	其他	米國	日本	朝鮮	東亞煙草株式會社
一、〇〇〇、〇〇〇弗	四、四三、二一二、〇〇〇弗	三、〇八、〇〇〇、〇〇〇弗	一、〇四、〇〇〇、〇〇〇弗	三、〇〇〇、〇〇〇弗	東亞煙草株式會社
一、〇〇〇、〇〇〇弗	四、四三、二一二、〇〇〇弗	三、〇八、〇〇〇、〇〇〇弗	一、〇四、〇〇〇、〇〇〇弗	三、〇〇〇、〇〇〇弗	報
一、〇〇〇、〇〇〇弗	四、四三、二一二、〇〇〇弗	三、〇八、〇〇〇、〇〇〇弗	一、〇四、〇〇〇、〇〇〇弗	三、〇〇〇、〇〇〇弗	報

本年度十月	二三、八〇三、〇〇〇弗
前年度十一月	二四、一〇一、〇〇〇弗

郵便小包による各種

本年度十月	二二、二〇〇弗
前年度十一月	一八、六〇〇弗

玉銀層及金銀

本年度十月	一九、〇〇〇弗

仕ゴ向圖

英領各地

蘭領東印度

其他

合計

本年度十月	八七三、〇〇〇弗
前年度十一月	五二、〇〇〇弗

總額

本年度十月	二、〇〇〇弗
前年度十一月	一、〇〇〇弗

合計

其他	一、〇〇〇弗
蘭領東印度	一四、〇〇〇弗
日本	一、六三〇、〇〇〇弗
米國	二、八六三、〇〇〇弗
瀬戸谷圖	六、八四六、〇〇〇弗
其他各地	一、一六四、〇〇〇弗
英領各地	三、五一〇、〇〇〇弗
仕向圖	五、六三〇、〇〇〇弗

戸廻雜品

聯邦

前年度十一月	三五、六〇〇弗
本年度十月	四四、二〇〇弗
合計	三八、二〇〇弗
其他	六四〇、〇〇〇弗

前年度十一月	一、〇〇〇、〇〇〇噸
本年度十月	一、〇〇〇、〇〇〇噸
合計	二、〇〇〇、〇〇〇噸
其他	四〇〇、〇〇〇噸
關東州	五〇〇、〇〇〇噸
英領各地	八、〇〇〇、〇〇〇噸
出向圖	驚〇〇、〇〇〇噸
戸塚振氣金屬	一、〇〇〇、〇〇〇噸
前年度十一月	一、八〇〇、〇〇〇噸
本年度十月	二、二〇〇、〇〇〇噸
戸塚鋼小田原による各鑛	
前年度十一月	二、一〇〇、〇〇〇噸
本年度十月	二、八〇〇、〇〇〇噸

圍の護謨千八百九十一噸とされは十月分の一萬四千五百二十七噸に比

最大消費圏たる米圏が產業革新對策を決定するであらうとの觀測の下に、株式及商品市場は堅實であると、報じられてはゐる、十二月の作業短縮期を控へて大工場筋の買不活潑により、依然ゴム價は好轉を見せない、十一月及十二月中の米國に於ける消費量は一ヶ月三萬五千噸とみられてゐるが、一月より三月に至る第一四半期は一ヶ月四萬五千噸の消費を豫想されてゐる、自然この米國の需要增加によりゴム價は上昇を期待されてゐる。

十一月末に於ける世界在庫量は二十一萬七千六百噸に達し十月分より二萬一千九百噸の增加を示した、馬來亞の十一月分在庫量は商社手持一萬三千七百三十一噸、護謨園二萬六千九百二十九噸、合計四萬〇六百六十噸であつた、生產は大護謨園の二萬七千八百五十六噸で十月の二萬八千三百四十五噸より四百八十九噸の減少、小護謨

國の一萬五千八百九十一噸とれは十月分の一萬四千五百二十七噸に比して一千三百六十五噸の增加であつた、馬來亞十一月の全生產は四萬三千七百四十七噸で生產制限許可量に達しなかつた。外領護謨の輸入は一萬二千三百九十六噸で前月より減少した。十一月中の領內積出高は四萬二千噸なるも、全船送高（輸出）は五萬七千八百五十噸であつた。

國際ゴム組場安の中依然として好轉を許さない、一進一退を續けつゝ漸次下十一月初旬にある、全馬來月の末產量も本年二月以來の最低の五千八百三十六噸であつた。

倫敦相場		二十四仙八分五	二十三仙四分一
十一先物		二十五仙二分一	二十四仙
シンガポール			
ロンドン	現物	七片八分五	七片八分一

先物	七片四分三	七片十六分三
ニューヨーク		四二仙二分一
現物	十五仙四分一	十四仙八分三
先物	十五仙八分三	十四仙十六分九

錫

國際情勢不安の中依然として好轉を許さない、一進一退を續けつゝ漸次下押しの狀態にある、全馬來亞の生產量も本年二月以來の最低の五千八百三十六噸であつた。

錫相場

十一月初旬	月末	
シンガポール		
現物	一〇四弗	九一弗二一仙

ニューヨーク　現物　四十八仙四分一　四二仙二分一

ロンドン　現物　一二一磅五志　一八七磅七志

國際錫生產制限委員會の決定により明一九三八年度第一四半期の割當勝可量は七割に決したが、ボリビア、白領コンゴー、佛領印度支那等はその不足量を一九三八年度總計一萬一千噸迄は他に振り當てらるべきことを承認した、その結果馬來亞、蘭領東印度及ニゲリアはクオータは七〇%なるも實質に於いて約八〇%の生產輸出が許可されることになつた。

ルーマニア	四二、三二、〇〇〇
露西亞	一、八七、〇〇〇
ブルガリア	四、〇〇〇
セルビア	一、〇〇〇
合計	一、二一、〇〇〇

の國土面積一萬平方哩の人口一億四千萬人の國，日露戰役，ユトランド海戰，ユトランド海戰，ユトランド海戰

p-11-d

新嘉坡情報

英國產業博覽會と馬來亞織物問題

十二月三十一日

全大英帝國の國產展覽會たる產業博覽會が一九三八年二月二十一日より三月四日迄ロンドン、アールズ・コートに於いて開催されることに決定し、新嘉坡駐在英國商務官事務所は既にこれが宣傳をなしつゝある、右產業博に於いて英國の主眼とするところは織物工業の部門である。織物輸入割當の强化、織物製品の割當實施、加ふるに今次日支事變以來華僑のボイコットにより急激な減退を示した日本製品を、この絕好の機會に馬來亞市場より驅逐せんするランカシヤの意志が働きつゝある。それだけ英國はこの成果に關心と期待をかけてゐるとみられる。

「然し如何に老英帝國が策動をなすとも頽勢に在る今日、斷じて彼等の期待が招來されるものではない。

蔣介石政權の沒落と廣東の失陷は東亞に於ける英國勢力の後退

である。

次に來る可きものは屬領民族の英國離反である。

長く英國の武力に賴つて來た蘭領東印度さへ、英國最早賴むに足らずと思考してゐる。」

ものである。

水戸に入来の国の事にはにに蕭しけんを来たれり蕭写の行蕭写の行蕭写の行

p-11-d

新嘉坡情報

一月五日

一九三八年度第一、四半期の錫生産割當

前年度七月以來東亞及歐洲の錯雜なる情勢と米國の消費減少等に支配され、錫價は下落の一途に在り、市場も亦何日好轉の見透しさへつかず混迷の中に、國際錫生産制限委員會はその錫價吊り上げと市況の好轉を目標として今年度第一、四半期の各國の生産割當量を減少した。

各國別割當量

國別	割當額
白領コンゴー	二〇六六噸
ポリビア	六五七〇噸
佛領印度支那	四六一噸
馬來亞	一四三二二噸

蘭領東印度　七、二三二噸
ユゲリア　二、一六八噸
遥羅　三、二七八噸

國際錫生産制限委員會は一噸二百磅の錫價水準相場を主張し、そのために割當量の改正（減少）、錫價の管理、採鑛の調整が必要であるとなし、高度生産國馬來亞、蘭印其他の代表もこれに贊成したと傳へられる。

一九三七年度十一月末に亞る十一月ヶ月の英國錫輸入は二萬百十九噸であつた。一九三六年同期は一萬一千五百五十二噸。

米國の一九三七年度十一ヶ月輸入高は七萬八千八百三十五噸、其中海峽植民地よりの輸入は六萬二千八十三噸に達した。

一九三七年度馬來亞錫輸出額

昨年度輸出總計九萬三千百〇六噸にして一九三六年度よりは九千六百十四噸の増加であつた。

一月	七九三八噸
二月	六五九五〃
三月	九一四〇〃
四月	八一七八〃
五月	七一五三〃
六月	六三九一〃
七月	九三〇六〃
八月	八五〇四〃
九月	七八二六〃
十月	八一五〇〃
十一月	六〇八〇〃
十二月	一一〇〃

八月	八五三〇噸
九月	七八二六〃
十月	八一五〇〃
十一月	六〇八八〃
十二月	七八一一〃

八	火	十	十	十
八	水	十	十	十
八	木	十	十	十
八	金	十	十	十
八	土	十	十	十

p-11-d

新嘉坡情報　十二、十二、一

ジョホール州下ゴム園苦力に關して

「支那人勞働者增加せよと栽培者の要望」

ジョホール栽培協會は過般來同會々員たる護謨園經營者に對し、

一、採液苦力雇傭難を感ぜぬか、

二、採液苦力以外の勞働力に不足を感ぜぬか、

三、支那人勞働移民の自由入國許可に贊成するか、何等の行動に出

四、最近四ヶ月間（日支事變發生以來）に支那人或は印度人より

多數の就業申込を受けてゐるか、

右の質問書を配付してその回答を求めた結果、第一の質問に對し

採液夫不足を回答した者二一五、不足を感ぜぬと回答せる者二五三、第

二に對しては一般勞働力の不足を回答した者一二六、不足無しとせる

者は三四一、第三に對しては支那人移民自由入國許可に贊成の者三一

四、反對者一二八。

右回答の全部を通じて目下勞働者の實際的不足を感じてゐない者三〇四、不足を回答した一七八の不足勞働者は合計五、一五四名となりこの中支那人二、四四九といふ結果を得たと、同協會は委員會を開き右の結果に基いて協議をなしたが、實際に勞働者の不足は示してはゐるが、近くゴムの生産制限制當量の切下げのあることを考慮すれば目下の狀態は重大視すべきものでなく、且つ現狀に於て支那人女子勞働者を相當に得られる故、此の問題はこのまゝ何等の行動に出ないことに決したと云ふ。

この直後に於て海峽殖民地政府は移民通告令を公報號外を以て發表した。

一九三八年一月一日より支那人移民は毎月三千名を限り入國を許可す」。

これに對して政府は支那人移民の入國を減じたのは日支事變によ

の當領在住の支那人の歸國者の激減によるものであると解明した。

（一九三七年度は毎月四千名の人國を許可してゐた）

昭和廿年一月一日　東亞經濟調査局　弘報課　編輯

發行人　東亞經濟調査局　弘報課

印刷人　東京都豊島區目白町二丁目一番地

印刷所　東亞印刷株式會社

發行所　東亞經濟調査局

定價　一部　金拾錢　年分　金壹圓拾錢

郵便物認可　第三種郵便物

（一）本川力・弁・現兵・体・三・四・十・仲・ろ・く・四・を・呼・巳・つ・わ・も・ち）

（二）無・密・生・生・ろ・れ・ば・ど・く・ろ・四・れ・も・ろ・の・ま・ま・ろ・ま・ま・ま

新嘉坡情報

十二、十一、二七

馬來亞十月對外貿易

一九三七年十月馬來亞對外貿易

輸出入比總額　一二六、四八九、〇〇〇弗

輸入　五三、一八一、〇〇〇弗

輸出　七三、三〇八、〇〇〇弗

輸出、輸入共に前年十月に比すれば、その輸出に於て二千五十九萬八千弗、輸入九百六十六萬七千弗と著増を示したが、今年九月に比すれば輸出九百九十一萬七千弗、輸入九百二十五萬弗と共に大きな減退を示した、輸出減少の主たる原因は護謨及錫の慘落と米國、日本への輸出が減縮され、加ふるに一般農産物の下落によるものであつた。これに伴つて馬來亞大衆の購買力が弱められた結果輸入の

減少が招來されたのである。

本年度一月以降十ヶ月の累計貿易額は

輸入　五八八、九三八、〇〇〇弗

輸出　七七八、九四〇、〇〇〇弗

前年同期に比較して輸入一億七千二百四十四萬三千弗、輸出二億六千四百二萬參千弗の共に著增を示した。

十月各國別輸出入額を示せば

國名	輸入	輸出
英國	九、三六六、〇〇〇弗	九、二六一、〇〇〇弗
英領各地	九、五四一、〇〇〇	八、八三七、〇〇〇
歐洲各國	三、二四七、〇〇〇	一〇、七〇五、〇〇〇
米國	一、四四九、〇〇〇	三四、一七八、〇〇〇
日本	二、四三八、〇〇〇	四、二九九、〇〇〇

の入輸出入共に著增を示したのである。

日本への輸出は新嘗祭の一週間前のものであるため一時的に著增したのであるが、輸入は前年同期に比べ少の減少を見たのは日支間の貿易が著增の傾向を示したのである。

輸出入共に前年十月の輸出入額を示せば、輸入八千弗、輸入八百六十六萬七千弗と著增を示したが、今年は日支間の貿易が著增の傾向を示したのである。

輸出、輸入共に前年十月の輸出入額を示せば、輸出二千五十八萬三千弗、輸入一億八千〇〇〇弗

輸出入總額　一億六千四百八十四萬〇〇〇弗

一九三七年十月以來亞細亞諸地貿易

滿洲國貿易概況

十二、十一、二十七

日本	二四三八〇〇〇	四二七九〇〇〇	
米國	一四四九〇〇〇	三四一七八〇〇〇	
獨逸國	三二四七〇〇〇	一〇七〇五〇〇〇	
英國	八五四一〇〇〇	八八三七〇〇〇	
蘭領東印度	八三六六〇〇〇	九二六一〇〇〇	
其他	一六四八二〇〇〇	二九二五〇〇〇	
總計	一〇一六五〇〇〇	二九一七〇〇〇	

十月各國別輸出入額を示す如し。

六千四百二萬零千弗の共に著増を示す。

前年同期に比し輸入一億一千二百四十四萬三千弗、輸出二億

輸出　一億八千四百〇〇〇弗

輸入　一億八千八百三八〇〇〇弗

本年第一月以來十ヶ月の累積貿易額は次のごとくである。

蘭領東印度

其他市場他

一六四八二〇〇〇弗

一〇一六五〇〇〇

二九二五〇〇〇弗

二九一七〇〇〇

輸出は前月に比して四十六萬七千弗、前年度十月より百六十二萬九千弗の、共に增加を示した。輸入に於ては前月より八十萬八千弗、前年度十月よりは四十九萬六千弗の、共に減少を見た、これは日支事變による華僑のボイコットと前記の購買力減退によるものである。

對英貿易

輸出は前月に比して四十四萬一千弗の減少であつたが、輸入は三十二萬一千弗の增加を示した、前年度十月に比すれば輸入二百六十六萬六千弗、輸出五百七十九萬一千弗の、共に增加である。

護謨

米國市場の混亂はルーズベルト大統領と金融業者間の紛爭に基くものであると傳へられるが、要はニューヨーク株式市場取引を統制すべき新法律を決定が各市場に影響し護謨市場の跌落もその煽であつた、この米國の株式市場建設的改正によつて決潰せられた堤防の修復は米國政府にとつて緊急事であつた。一方國際ゴム統制委員會が冷淡に然も沈默を守つてゐたことは不當であると一般業者は非難してゐる。委員會の機能は一般的利益を調整するにある、にもかゝはらず昨年以來の經過を見ても分明する如くゴム相場を五割方も變動させ、全くその目的に失敗し、現在も尙その失敗を續けつゝある、その爲ゴムの統制は亂れ相場は跌落し、ゴムに依存する馬來亞の經濟は非常な危機に直面してゐる。英國植民省當局も焦慮しつゝあると傳へる。各市場共人氣不安の中に在り、アメリカの消費が明瞭に

六萬六千噸、鋼出五百十七萬一千噸の、共に增加である。

十二萬一千噸の增加を示し、前半期十月に於ける鋼人二百六十三萬一千噸の減少であつた、鋼出は前月に比して四十四萬一千噸の減少である。

（英、貿、易、）

華盛頓のホトヒヾイゝ前月の輸買力は恒常のものである。

前半期十月は四十八萬六千噸の、共に減少を見たが、支那は日支二千噸の、共に增加を示し、鋼人は前月より八十萬八千噸、鋼出は前月に比して四十六萬七千噸、前半期十月より百六十二萬

（日、貿、易、）

一〇、一六五、〇〇〇噸	二、六一七、〇〇〇噸
一六四八、〇〇〇噸	二、六二五、〇〇〇噸

其一部

國際貿易東印度

され、且つ國際政局の不安が解消される迄はこれがつゞけられるものと大手筋は見てゐる、馬來亞十月の積出量も六萬噸を予想されてゐたにも不拘、僅かに三萬七千噸に過ぎなかつた。九月の輸出五萬二千三百七十七噸に比して一萬五千三百七十七噸の激減であつた。

更らに馬來亞割當許可輸出量の四萬四千百七十五噸に不足することと七千百七十五噸。

然して馬來亞十月の生産高は四萬二千八百七十二噸にして生産制限額に充たないものであつた。

外領ゴムの移入も九月に比して七千噸の減少を示し一萬一千八百噸に過きなかつた。積出量の三萬七千噸は領内移動であつて、實際の船送高は五萬九千噸であつたが、前月の六萬七千噸に比較して八千噸の減少を見たのである。

日本向ゴム輸出高は僅かに四一一噸に過ぎなかつた。」

日本向ヒタル輸出高ハ前月ニ四一一噸ニ過ギなかつた。」

千噸ノ減少ヲ見たのである。

の輸送高ハ五萬八千噸ガあつたが、前月ノ六萬七千噸ガ八

噸ニ過ぎなかつた。輸出量ノ三萬二千七噸ノ減少ヲ示し一萬一千八百

ハ比較シテ大ノ減少ヲ示シ一萬一千八百

噸ガあつたのである。

然シ乍ラ東亜諸港ノ生産高ハ四萬二千八百十二噸ニシテ生産

千百十五噸。

東亜諸港輸出量ノ四萬四千七百十五噸ニ不足セルコトハ

二千三百七十一噸ノ一萬五千三百七十七噸ノ減少ヲ示シタ。

ルコトハ不幸ノ事ト、輸出ノ減少ハ生産ノ大半ガ見込ノ

ル、且ツ国際政治ノ不安ノ為ニ輸出ノ

十月中のゴム相場

	上旬	下旬
ロンドン	八片十六分九	七片二分一
現物	八片十六分一	七片八分五
ニューヨーク		
現物	十七仙八分五	十五仙四分一
先物	十七仙四分三	十五仙八分三
シンガポール		
現物	二十仙八分七	二十四仙八分五
先物	二十九仙	二十五仙八分三

（十一月二十六日現在シンガポール

現物　二十三仙八分三

十月中の増加であつた。

十月國別輸出統計は

仕向地　輸出

英國

（十一月二十六日現在ベンガポール）

現物	一二十三仙八分三	
先物	二十九仙	二十五仙八分三
現物	二十八仙八分七	二十四仙八分五

ベンガポール

先物	十七仙四分三	十五仙八分三
現物	十七仙八分五	十五仙四分一

ニューヨーク

先物	八仙十六分一	七仙八分五
現物	八仙十六分六	七仙二分一

ロンドン

現物	上	仙

十月中のヒル相場

錫

國際政局の緊張とアメリカ國内事情の動態により錫及護謨價は下落の底に在り（現在の世界情勢から判斷して今が底値と考へる）馬來亞に於ける業界は不安の中に置かれてる。從つて十月に入り生産は不振となつた。然るに輸出は前月に比較して三百餘噸の増加を示したのである、これは馬來亞のストックと外領よりの移入錫が輸出されたからである。十月馬來亞の生産額は五千二百四十八噸で前月の八千四百四十五噸に比して三千百七十七噸の大減退を示した、十月輸出額は八千百五十噸に達し前月の七千八百二十六噸に比して若干の増加であつた。

十月國別輸出統計は

仕向地	輸出額
英國	三二五噸

英領各地	四六一噸
米國	五八二、九〇〇〃
歐洲各國	八〇七〃
日本	六八四〃
蘭領東印度	四〇〃
他國	八一五〇〃
合計	

一九三七年一月以降の輸出額（十ヶ月）七萬九千二百七十噸にして月別に示せば

月別	輸出額
一月	七九三八噸
二月	六五九五〃
三月	九一四〇〃

英國

社向地　輸出額

十月國別輸出統計は次の如くである。

月輸出額は八千百五十噸に達し前月の十八百二十六噸に比べて三千百十噸の大幅増を示した。十月輸入は一千四百四十五噸に比べて三千百十八噸の減少を示したのである。十月輸入は米國の生産高は五十二百四十八噸で前月の出輸入額はイギリス代表の輸入額の輸入額は前月に比べて三百噸の減少を示した。然るに輸出は前月に比べて三百噸の減少を示したのである。

米國の中の産業は不安の中に進展しつゝあるが、東亞の産業は不安の中に進展しつゝある。

國際連盟の最近の報告によると國内産業の景況は

月別	出鑛高
二月	九一四〇〃
一月	六五五五〃
	七五三八〃

（月別に示すと）

一九三七年一月以降の鑛出鑛（一トン）高六千七百二十七トン

合計	
信託	八一五〇〃
國營	四〇〃
蘭領東印度	四〃
日本	六八四〃
滿洲國	八〇〃
米國	五八二〃
英領各地	四六一〃

一九三七年度一月より十月に至る各月生産額を示せば

月別	生産額
四月	八一七八噸
五月	七一五三〃
六月	六三九一〃
七月	九三〇六〃
八月	八五三〇〃
九月	七八二六〃
十月	八一五〇〃
合計	
一月	六一三四噸
二月	五一五四〃
三月	六六一〇〃
四月	六一四九〃
五月	五六四九〃

六月	七、八九九噸	
七月	五、六六五〃	
八月	五、八一一〃	
九月	八、四四五〃	
十月	五、二四八〃	
合計	六二、七六四〃	

十月馬來亞各地の生産額は

州別	生産額
聯邦州	五、一二八噸
ジョホール州	一、二一二〃
ケダ州	三、二二〃
ペルリス州	三、七〃
ケランタン州	四〃

トレンガヌ州

計	三五噸
	五、二四八〃

十月錫相場

	十月初旬	十月下旬
ロンドン		
現物	二四六磅	二一一磅五志
先物	二四四磅一〇志	二一一磅
ニューヨーク		
現物	五六仙二分一	四八仙四分ノ一
シンガポール		
現物	一二五弗	一〇四弗五〇仙

十一月二十七日現在相場

現物 ロンドン	一八四磅一五志
現物 ニューヨーク	四一仙四分一
現物 シンガポール	八九弗五〇仙

「日本向錫輸出高は本年度十ヶ月間の最高六八四噸であつた」。

輸出入詳表

本年度十ヶ月輸入月別表（新年開始者用）

	一九三七年	一九三六年
一月	五四一四四〇〇〇弗	四六八九七〇〇〇弗
二月	五〇一二五〇〇〇	四三一五〇〇〇
三月	五六九〇八〇〇〇	三七六二〇〇〇
四月	六四二〇五〇〇〇	三九一六〇〇〇
五月	五五〇四七〇〇〇	三九〇六三〇〇〇
六月	六四一九九〇〇〇	四〇二七〇〇〇
七月	六五一五〇〇〇〇	四八九〇〇〇〇
八月	六三六八三〇〇〇	四二四一八〇〇〇
九月	六二四三七〇〇〇	四四五〇〇〇〇

ベンガル　八六五〇〇〇弗
ニューヨーク　四一四四一弗
ロンドン　一八四四一五〇〇〇

十一月二十七日現在現地相場

東京　一二五〇　一〇四五〇〇
ベンガルポール　五六四二分一　四八四四分ノ一
ニューヨーク　二四四一〇〇〇　二一一一〇〇
ロンドン　二四六〇〇〇　二一一一五〇〇
十月末日現地相場
情況
ペンガルポール　五二四八〇〇　十月下旬

輸出入詳表

本年度十ヶ月輸入月別表（前年同期對照）

一九三七年		一九三六年	
一月	五四、一四四、〇〇〇弗	一月	四一、八九七、〇〇〇弗
二月	五〇、一二五、〇〇〇	二月	四二、三一五、〇〇〇
三月	五六、九〇八、〇〇〇	三月	三七、六二四、〇〇〇
四月	六四、二〇五、〇〇〇	四月	三九、一六一、〇〇〇
五月	五五、〇四七、〇〇〇	五月	三九、〇六三、〇〇〇
六月	六四、一九九、〇〇〇	六月	四〇、二七七、〇〇〇
七月	六五、一五〇、〇〇〇	七月	四九、七八一、〇〇〇
八月	六三、六八三、〇〇〇	八月	四二、四一八、〇〇〇
九月	六二、四三一、〇〇〇	九月	四〇、四四五、〇〇〇

一日本向輸出高は本年度十ヶ月間の最高六八四萬ドルである。

	輸入	十月
其他	仕出地	
蘭領東印度	各地	一、食糧
日本國	各地	五三一
米國	洲領	八一、飲料
歐洲	領	〇〇、煙草
英國		〇
英國		
本年十月輸入總計		十月
一、食糧		四三五一
五三一		〇〇
八一、飲料		〇
〇〇、煙草		
〇		
一一		
四四		三二
二六		九五
〇〇		一六
五一		二〇
二二		七一
〇〇		七總
四六		
二五		
〇〇		
〇〇		
〇〇		〇〇
〇〇		〇〇
〇〇		〇〇

仕出地	總額
英國	四六〇〇〇弗
英領各地	二〇四九〇〇〇〃
歐洲各國	四〇〇〇〇〃
米國	九〇〇〇〃
日本	二九〇〇〇〃
蘭領東印度	六四五〇〇〇〃
其他	四五二五〇〇〃
計	一三四九三〇〇〇〃
本年度九月	一九六八〇〇〇〃
前年度十月	一三二二八〇〇〇〃

仕出地	總額
英國	一二五三〇〇〇弗

二、原料及部分品

仕出地	總額
英國	一五七八〇〇〇〃
其他	一四〇四六〇〇〇〃
蘭領東印度	二五二五〇〇〇〃
日本	一二〇〇〇〃
米國	六〇八〇〇〇〃
歐洲各國	三五八〇〇〇〃
英領各地	一五一三〇〇〇〃
其他	二四〇〇〇弗
計	四三五一四〇〇〇

一、食料、煙草、飲料

仕出地	總額
英國	一五七八〇〇〇〃
其他	一四〇四六〇〇〇〃
蘭領東印度	二五二五〇〇〇〃
日本	一二〇〇〇〃
米國	六〇八〇〇〇〃
歐洲各國	三五八〇〇〇〃
英領各地	一五一三〇〇〇〃
其他	二四〇〇〇弗
計	四三五一四〇〇〇

輸入

年度十月	總額
本年度九月	一五七八〇〇〇〃
前年度十月	一三五三一八〇〇〇

仕出地	總額
英國	六、六五六、〇〇〇弗
英領各地	三、二四五、〇〇〇〃
歐洲各國	二、五九八、〇〇〇〃
米國	一、〇八四、〇〇〇〃
日本	二、〇二七、〇〇〇〃
蘭領東印度	一、三三〇、〇〇〇〃
其他	六、〇六七、〇〇〇〃
計	二三、〇〇二、〇〇〇〃
本年度九月	二五、〇二七、〇〇〇〃
前年度十月	一七、三二三、〇〇〇〃

三、各種既製品

仕出地	總額
英國	一、二二八、〇〇〇〃
英領各地	一、八六八、〇〇〇〃
歐洲各國	一、三四六、〇〇〇〃
米國	四、五二二、〇〇〇〃
日本	六、四五一、〇〇〇〃
蘭領東印度	二、〇〇〇、〇〇〇〃
其他	〇、〇〇〇、〇〇〇〃
計	二〇、四八〇、〇〇〇〃
本年度九月	一、二二五、〇〇〇〃
前年度十月	一、八六〇、〇〇〇〃

二、原料及陪分品

前年度十月	一、廿三、三二六〇〇〇〇〇〃
本年度九月	二、五〇二、廿〇〇〇〇〇〃
情	二、三〇〇、二〇〇〇〇〇〃
其	一、三三〇、〇〇〇〇〃
他	六〇、六廿〇〇〇〇〃
蘭領東印度	二〇、二廿〇〇〇〇〃
日本	一〇、八四〇〇〇〇〃
米國	二、五八〇〇〇〇〃
獨逸各國	三、二四五〇〇〇〃
英領各地	六六五、一〇〇〇〇〇弗
仕出銀	計

三、各廠廻漕品

四、郵便小包による各種

十本年月	四九三、〇〇〇〇弗
前月	七六〇、〇〇〇〇弗
前年度十月	四〇〇、〇〇〇〇弗

五、銀貨及金銀

仕出地	總額
英國	一五六、〇〇〇〇弗
英領各地	二六九、〇〇〇〇〃
蘭領東印度	一、四三九、〇〇〇〇〃
其他	二六四、〇〇〇〇〃
計	二、一二八、〇〇〇〇〃
本年度九月	一、一六八、〇〇〇〇〃

前年度十月　六、九四〇、〇〇〇弗

本年度十ヶ月輸出額月別表（前年同期對照）

一九三七年		一九三六年	
一月	六四、二九五、〇〇〇弗	一月	四六、一七三、〇〇〇弗
二月	六一、二五一、〇〇〇	二月	四七、六三三、〇〇〇
三月	八六、三三〇、〇〇〇	三月	五一、一一七、〇〇〇
四月	九三、五八〇、〇〇〇	四月	四四、五九八、〇〇〇
五月	七四、三七〇、〇〇〇	五月	五四、七六三、〇〇〇
六月	七三、九八二、〇〇〇	六月	五〇、九八七、〇〇〇
七月	八七、八七七、〇〇〇	七月	六一、三一七、〇〇〇
八月	八〇、七二二、〇〇〇	八月	五二、七二四、〇〇〇
九月	八三、二二五、〇〇〇	九月	五二、八九五、〇〇〇
十月	七三、三〇八、〇〇〇	十月	五二、七一〇、〇〇〇

三一〇、〇〇〇弗　一七〇、〇〇〇弗

十月	五、三〇八、〇〇〇
九月	八、二二五、〇〇〇
八月	八、〇七二、二〇〇、〇〇〇
七月	八、八七七、〇〇〇、〇〇〇
六月	七、八二六、〇〇〇、〇〇〇
五月	七、〇〇三、〇〇〇、〇〇〇
四月	八、〇〇五、〇〇〇、〇〇〇
三月	八、〇〇三、〇〇〇、〇〇〇
二月	六、一二五、〇〇〇、〇〇〇
一月	六、四二六、〇〇〇、〇〇〇弗
一九二七年	

本年度十ヶ月總出超額（前年同期對照）

十月	五、二一〇、〇〇〇、〇〇〇
九月	五、二八〇、〇〇〇、〇〇〇
八月	五、二六二、〇〇〇、〇〇〇
七月	六、一三一、〇〇〇、〇〇〇
六月	五、〇八七、〇〇〇、〇〇〇
五月	四、六三〇、〇〇〇、〇〇〇
四月	四、五八〇、〇〇〇、〇〇〇
三月	五、一一〇、〇〇〇、〇〇〇
二月	四、六三〇、〇〇〇、〇〇〇
一月	四、六一〇、〇〇〇、〇〇〇弗
一九二六年	

前年度十月 三一〇、〇〇〇弗

本年度九月 七七八、九四〇、〇〇〇弗

前年度十月 五一四、九一七、〇〇〇弗

輸出

	總額
仕向地	
英國	四、八六〇、〇〇〇弗
英領各地	二、〇三八、〇〇〇
歐洲各國	二、五〇〇、〇〇〇
米國	七〇〇、〇〇〇
日本	二、〇〇〇、〇〇〇
蘭領東印度	一、六六八、〇〇〇
其他	三、七九〇、〇〇〇
計	四、九一六、〇〇〇

一、食糧、飲料、煙草

情	四、六一〇、〇〇〇
其他	三、七〇〇、〇〇〇
蘭領東印度	一、六六八、〇〇〇
日本	二、二〇〇、〇〇〇
米國	六、〇〇〇、〇〇〇
瀕地各國	二、五〇〇、〇〇〇
英領各地	二、〇三一、〇〇〇
英國	四、八六〇、〇〇〇
二、仕向地	縣
一、倉庫、爲替、賣草	〇
計出	一、四六一、〇〇〇
情	一、四六一、〇〇〇

二、各種既製品

本年度九月	五、一五三、〇〇〇
前年度十月	四、四五四、〇〇〇

仕向地	總額
英國	八、〇六五、〇〇〇 弗
英領各地	二、八五〇、〇〇〇
歐洲各國	八、八六六、〇〇〇
米國	二一、八九四、〇〇〇
日本	一、二五三、〇〇〇
蘭領東印度	一、一三五、〇〇〇
其他	一、二〇九、〇〇〇
計	四四、二七二、〇〇〇

其他	四、二六〇、〇〇〇	
蘭領東印度	一、〇〇〇、〇〇〇	
日本	一、二五〇、〇〇〇	
米國	二、八四〇、〇〇〇	
加拿大各國	八、六〇〇、〇〇〇	
英領各地	二、八〇〇、〇〇〇	
仕向地	八、〇六五、〇〇〇	
英國	四、四五四、〇〇〇	

二、各種雜貨類

前年度十月	四、四五四、〇〇〇	
本年度十月	五、一五三、〇〇〇	

三、原料及未製品

本年度九月	五〇、七七二、〇〇〇	弗
前年度十月	五二、九六六、〇〇〇	

仕向地	總額	
英國	七一〇、〇〇〇	弗
英領各地	三、九五九、〇〇〇	
歐洲各國	一、五八九、〇〇〇	
米國	一二、二一四、〇〇〇	
日本	二、九七四、〇〇〇	
蘭領東印度	一、〇三四、〇〇〇	
其他	一、三二三、〇〇〇	
計	二三、八〇三、〇〇〇	

仕向地	總額
英領各地	三二〇〇〇弗
蘭領東印度	九三〇〇〇
其他	六〇〇〇
計	一三一〇〇〇

本年度九月	二六、九七〇、〇〇〇弗	
前年度十月	一三、八〇〇、〇〇〇	

四、郵便小包による各種

本年度九月	一八六〇〇〇弗
前年度十月	一八五〇〇〇

五、銀盾及金銀

仕向地	總額
英領各地	三二〇〇〇弗
蘭領東印度	九三〇〇〇
其他	六〇〇〇
計	一三一〇〇〇

仕向地	總額
其他	二六八〇〇〇
蘭領東印度	一三二〇〇〇
日本	一〇〇〇〇
米國	二六〇〇〇
獨逸各國	一二一〇〇〇
英領各地	一五八〇〇〇
英國	三六五〇〇〇
計	一〇〇〇〇弗

三、期待及未變品

前年度十月	五二六〇〇〇
本年度九月	五〇四〇〇〇弗

本年度九月	一四四、〇〇〇 弗	
前年度十月	一、三〇六、〇〇〇	

以上

昭和四年十月
本書定價金壹圓
一八三〇〇〇

P-11-d

新嘉坡情報

十二、十一、二九

一九三八年度馬來亞織物輸入數量確定

海峽殖民地政府は殖民地及馬來亞各州への明年度織物輸入數量を決定し十一月二十七日午後公報を以て告示した。

國別	數量
支那	八〇〇〇五一碼
伊太利	一五六〇二六〃
日本	四〇二三七六四〃
和蘭	二四五五六二五〇〃
蘭領東印度	五六八四四〃
計	七四九二四三五〃

國別	數量	
蘭領東印度	一、〇〇〇、〇〇〇	〃
日本	一、六〇二、三〇〇	〃
英領馬來諸島	一、六〇八、〇〇〇	〃
支那	一、六〇〇、〇〇〇	〃
其他	一、六〇〇、〇〇〇	〃
合計	一、六〇〇、〇〇〇	〃

（二）織米輸出

我が十一月二十九日午後六時迄に和蘭へ

新嘉坡、蘭領東印度、日本、支那、英領馬來諸島、其他合計一、六〇〇、〇〇〇

合計一、六〇〇、〇〇〇

十二、十一、二七

蘭領東印度

國別	數量	
日本	八、七五八、九二九、一一八	〃
伊太利	二、三五九、七一三、〇	〃
支那	三、三二六、一八四、〇	碼

（三）捺染綿布

國別	數量	
日本	一、四九九、〇一一、八四〇	〃
伊太利	二、六四四、一一二、〇七〇	〃
支那	一、〇一一、七九五、〇七五	碼

（三）染色綿布

日本	八、五二八、一〇〇	〃
仏領太平洋	三、五八九、三〇〇	〃
支那	二、三六一、八四〇	〃
蘭領東印度	四、四三二、二六〇	〃
仏領印度	一、〇四一、二〇〇	〃
日本	一、四八〇、一八四	〃
仏領太平洋	四〇〇、〇〇〇	〃
支那	一、〇一四、五〇〇	〃

三、綿糸綿布

國別	數量	
和蘭	三、〇〇六	碼
蘭領東印度	一、一九、一七五	〃
計	九、五〇五、六二九	〃

四、織色綿布

國別	數量	
支那	一、四六八	碼
伊太利	一、五八〇、九七八	〃
日本	六、〇五七	〃
和蘭	一七二	〃
蘭領東印度	七四	〃
計	一、六四三、七四九	〃

情	數量
蘭領東印度	一、六四三、三四八〇〇〇
和蘭	一、三四四〇〇〇
日本	一、六〇五、三二〇〇〇
相太利	一、五八〇、八四八〇〇〇
支那	一、四〇七、六八〇〇〇
日國	一、量

毛織品輸出

情	數量
蘭領東印度	九、五〇五、六二八〇〇〇
和蘭	一一、九一一、五八〇〇〇
日本	三、二〇〇、六〇〇〇〇

五、綿サロン

國別	數量
支那	二九二碼
伊太利	九、九五〇〇〇〇〇〇
日本	七五、七二〇〇〇〇〇〇
和蘭	三一八、三一七〇〇〇〇〇〇
蘭領東印度	三、〇〇七、八一八〇〇〇〇〇〇
計	三、四一二、〇九七〇〇〇〇〇〇

六、人造絹布

國別	數量
支那	一、〇〇五、三三一碼
伊太利	六七二、一三三〇〇〇〇〇〇
日本	六、六八五、四五五〇〇〇〇〇〇

日本	六六八、五四五〃
蘭領太平洋諸島	六、六二一、三三〃
支那	一、〇〇五、三三一〃
國別總量	六人絹サロン
蘭領東印度	三四一、二〇六〃
蘭領東印度諸島	三〇〇、八一八〃
日本	三一八、三一一〃
蘭領太平洋諸島	八、〇〇〇〃
支那	二、六二二〃
計	一、八一八、〇〇〇〃

五絹サロン

和蘭	八、一一八碼
蘭領東印度	一、二、五二八〃
計	八、三八三、五六五〃
國別	七人絹サロン
支那	二、一五八碼
伊太利	一、一四九〃
日本	七三、九五二〃
和蘭	一、一六一〃
蘭領東印度	一、五七四〃
計	七九、九九四〃
支那	一二、一九〇、五五九碼
伊太利	三、五七四、二〇九〃
日本	三四、六六八、四二三〃

國別總量

蘭領東印度	一五、四四〇〃
日本	一、六六八〃
蘭領東印度	一、〇二

4、ライセンスは現存のアレンヂメントに既に資格を與へられてゐる者のみに發給する。

一之等統制織物の輸入品は平方碼で表記され、計算される一

5、割當國は五ヶ國であるがこれに佛領印度支那を加へて六ヶ國とする。

6、一九三八年度のライセンス料は一碼につき一厘とし、最低料は一弗、その料金はライセンス發行の日金額を支拂ふべし。

三、以前のスケジュールに指定されてなかつた國よりの織物輸入に對するスケジュールとフォームを定め、同様ライセン料の支拂を要求する。

一新條例の前年度との相違は割當適用國五ヶ國に更らに佛領印度支那を加へた事、ライセンス料を一ヤード一厘徴收の事、輸入計算を平方ヤードと決定した事等であつて、これは一般業者の思惑が非常に手加減される。而して一ヤード一厘の料金前拂は若し拂

はなければこの分を他に分け様とする意向を含むものとみられる。此の影響については目下の商況不振時に於ては相當打撃があると思はれるが、この結果は反つて他國品の競爭を減殺し日本品が有利な立場になるともみられる。從來でも採算のとれずに居た他國品は今回の新條例によつても依然として採算とれず、從つてライセンスの申込も減少され、要するにソロバンに合はないものは輸入されなくなる●茲に日本品の將來があると思ふ。

れは其の輸出品の殆んどすべてが東洋諸國の市場を目指すものであつたことは、
其の輸出品は主として綿糸、綿布、ゴム、ジュート、麻、羊毛、毛織物、
ゴム、ジュート、麻、羊毛、毛織物

p-ii-d

新嘉坡情報

最大の問題一九三八年度ゴム生産割當切下問題

十一月三十日ロンドンに於て開催された國際ゴム限産委員會が、最近ゴム界の中心問題となつてゐる明年度生産割當切下げを決定すべきことは、現下のゴム界情勢より見てその必至が傳へられてゐるが、問題は現在の割當九割を果してどの程度まで切下げ得るかにある。これに關してゴム界に種々論議が行はれてゐる。一般に七割五分或は七割まで切下げられるものと期待されてはゐるが、護謨生産制限委員會出席のためロンドンに在るアメリカ護謨製造業者協會々長エイ・エル・ヴイルス氏はアメリカの恢復及び米國政府と當業者の協力に基き十一月二十九日次の如き見解を發表してロンドン護謨市場に衝動を與へたと傳へられた。

アメリカのゴム消費は多少共急増するであらう、從つて自分が實際に懸念してゐるのは需要の加速度的增加率である。目下我々が最大の關心を寄せてゐることは、ゴム相場のより大きな安定性である。限產委員會は既にゴム在庫量を減退せしめ、需要急增に間に合ふだけの供給量を提供した、今日限產委員會としての仕事は業界を害すべき過激な變動を防止する事である。云々。

一方數社のゴム會社に社長たるモニー氏はフイナンシャル・タイムス紙上に於て、「ゴム價は、ポンド九片乃至十片こそゴム相場の妥當な標準である」、主張してゐる。

一九三八年度第一四半期護謨限產額決定

十一月三十日ロンドンに於て開かれた國際護謨生產制限委員會は明年度第一四半期の各國護謨生產及輸出准額を決定發表した。次に本年度及明年度の割當許可量を示せば、

本年度及明年度の産出量を示せり、

明年度第一四半期の産出量は第一四半期の各國産出量及輸出量を比較し、次の如く推定せられたり。

十一月三十日ロンドンに於て開催せられたる國際錫産出統制委員會は第一四半期産出量を前年同期産出量の三八年度第一四半期産出量の

當面の問題として、主として「ピュ」輸出制限の問題を取上げ、「ピュ」輸出制限の問題は、チェコスロバキヤ、ポルトガル、ルーマニヤ、ユーゴスラビヤ。

一九三八年

國名	クオータ	七〇%月量
馬來亞	六〇二、〇〇〇噸	三五、一一七噸
蘭印	五四〇、〇〇〇	三一、〇〇〇
セイロン	八二、〇〇〇	四、八一二
印度ビルマ	二二、三五〇	一、二九八
北ボルネオ	一六、〇〇〇	九六二
サラワック	三一、〇〇〇	一、八七五
シヤム	四〇、〇〇〇	三、五〇〇
計	一、三三五、〇〇〇	七九、〇〇〇

一九三七年

クオータ	九〇%月量
五八九、〇〇〇噸	四四、一七五噸
五二〇、〇〇〇	三九、〇〇〇
八一、〇〇〇	六、〇七五
二一、五〇〇	一、六一二
一五、五〇〇	一、一六二
三一、五〇〇	二、三六三
四〇、〇〇〇	三、〇〇〇
一、二九八、〇〇〇	九七、三八八

明年度第一四半期は割當二割切下げの七割となり、その生産は今年度第四、四半期より五六〇〇〇噸程度の減産とみられる、馬來亞

生産能力は、日本が一番高く、次いで英國、獨逸、ベルギーの順となつてゐる。

國名	年産能力		年入出ヒ	
	噸	指數	噸	指數
日本	三、三三六、〇〇〇	一〇〇	二、三三六、〇〇〇	一〇〇
英國	二、〇〇〇、〇〇〇	六〇	二、〇〇〇、〇〇〇	八六
獨逸	一、六〇〇、〇〇〇	四八	一、四〇〇、〇〇〇	六〇
ベルギー	一、二〇〇、〇〇〇	三六	一、〇〇〇、〇〇〇	四三
ソロヤク	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四三
佛蘭西	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四三
伊太利	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四三
合計	一、三三六、〇〇〇		一、三三六、〇〇〇	

生産能力は、日本が一番高く、次いで英國、獨逸、ベルギーの順となつてゐる。

鐵の重量二トンにすぎないが、やはり小さい。

算入した五百噸車の鐵道は、ロンドン、ニューヨーク、シカゴの諸都市に於ては、市街鐵道の一部分として、或は高架式の鐵道として、或は地下鐵道として、或は地表鐵道として、或は地下鐵道として、或は地表鐵道として、或は地下鐵道として、或は地表

p-11-d

十三、一、二六

新嘉坡情報

一九三八年度第二四半期護謨割當決定

一月二十五日ロンドンに於いて開かれたる國際ゴム生産制限委員會は本年度第二四半期のクオータを六〇%と決定した、このクオータ切り下げ發表は一般に好感を以て迎へられ、市場も活氣を呈しゴム價も全般的に四分一の上昇を見せた。

委員會の此の英斷はゴム價引上げのゼスチュアーと見られ業界は前途に多大の期待を持してゐる。

本年度第一四半期のクオータが平均六五%と決定されたのは米國現在の消費量を考慮してなされたものであるが、第二四半期の六〇%は單なる市價の釣り上げ策としてだけならば、今後米國の産業界の恢復による消費量の增加を來せば生産不足を招來すること必然である、從つて在庫量の遞減を伴ひ、徒らに市價の暴騰となり思惑筋

の躍手に市場が亂されコスト産業は不健康な發達を辿らなければならない。

海藻栽培

一九三八年度第二回中間のベトナム河内一月二十五日から二月二十二日迄

本年度第一回中間のベトナム河内の海藻栽培は去る一月二十五日から二月二十二日迄の二週間に亘り、海藻の生育状況、海藻の採取、海藻の出荷数量、海藻の市場の値段、海藻の品質等の調査を行ふと共に、海藻の栽培に関する指導を行ふ目的を以て、東亞經濟調査局の技師が現地に出張した。

今回の調査は、海藻の生育状況、海藻の採取、海藻の出荷数量、海藻の市場の値段、海藻の品質等の調査を行ふと共に、海藻の栽培に関する指導を行ふ目的を以て、東亞經濟調査局の技師が現地に出張した。

の鋼手ハ市場ハ勿論ナリトスルモ其業ハ
ひ外ニ子ハ子ハ工ハ外ニ
ひ。

東京印刷株式會社

新嘉坡情報

一九三七年十二月馬來亞對外貿易

十三、一、二七

政治的動態に依る產業界の動搖に累されて米國の護謨及錫の消費減は、馬來亞の對外貿易に及した影響は大きなものであつた、加ふるに日支事變に因る對日、對支貿易も甚大な影響を受けた。にも不拘一九三七年度貿易總額は最近數年來の最高數字を示した、殊に十二月に於いて對日輸出入共に若干の增加を示し來れることは、何を物語るか注目すべきである。

十二月輸出入總額　一一九、八〇三、〇〇〇弗

輸入　五四、九九一、〇〇〇弗

輸出　六三、八一二、〇〇〇弗

出超　八、八二一、〇〇〇弗

輸入は前月より四十萬九千弗、前年同期より六百九十四萬弗の共

に增加、輸出は前月より百四十五萬九千弗、前年同期よりは四百三十一萬一千弗の增加を示した。

一九三七年度輸出入總額

輸入	一、六〇三、五五七、〇〇〇弗
（前年度	六九八、四五二、〇〇〇弗）
輸出	五一二、九〇〇、〇〇〇弗
（前年度	九〇五、一〇五、〇〇〇弗）
出超	六三八、七六八、〇〇〇弗
	二〇六、六五三、〇〇〇弗

各國別輸出入を示せば

對日輸入	
十二月	一、九一八、〇〇〇弗
十一月	一、六四二、〇〇〇弗

十一月	輸入	一、六四三、〇〇〇弗
	輸出	一、五一八、〇〇〇弗
十二月	輸入	二、〇六六、五三〇、〇〇〇弗
	輸出	六、三八七、六八〇、〇〇〇弗
（前年度十二月）	輸入	五、〇五一、〇五〇、〇〇〇弗
	輸出	五、一二五、〇〇〇、〇〇〇弗
（前年度十二月）	輸入	六、八四五、二〇〇、〇〇〇弗
	輸出	一、六〇三、五五六、〇〇〇弗

一九三七年度輸出入總額は、

十一萬一千弗の輸入超過を示した。

輸出は前年同期より百四十五萬五千弗、輸入は四百三十一萬一千弗、輸出入共に

（前年度十二月）	輸入	三、〇六〇、〇〇〇弗
	輸出	五、〇五三、〇〇〇弗
十二月	輸入	四、八五二、〇〇〇弗
十一月	輸出	七、〇六四、〇〇〇弗

前年度十二月

對日貿易は日支事變に因り支那人、英國人其他のボイコットに、昨年度に比較すれば非常なる激減であるが十一月よりは輸出入共に若干の增加を示した、これは日本商品が一般購買層に對して如何なる位置にあるかを物語るものでなければならない。

對米

十二月	輸入	一、八七二、〇〇〇弗
十一月	輸出	二、三二八、〇〇〇弗

十一月	二三二八〇〇〇弗
十二月	一八七三〇〇〇弗
輸入	
對英	
十一月	二三六一七〇〇〇弗
十二月	二七四三六〇〇〇弗
（前年度十二月	二六八四三〇〇〇弗）
輸出	
十一月	一〇七一五〇〇〇弗
十二月	一〇四二六〇〇〇弗
（前年度十二月	八三五七〇〇〇弗）
輸出	
十一月	七九四七〇〇〇弗
十二月	五八〇八〇〇〇弗
（前年度十二月	六五七〇〇〇弗）

米國

十一月	三〇〇六〇〇〇弗
十二月	四八五二〇〇〇弗
輸出	
十一月	五〇五三〇〇〇弗
前年度十二月	三〇六〇〇〇弗

輸入

輸入は大部分加拿大のものであるが、米國は日本商品を一般輸買禁止の目的で輸入した。日本は十一月以降輸出入共に減少の傾向を示したが、この減少は非常に顕著なる減少であるが、前年度に比べ輸入は日支事變に因り輸入が、英國人其他のホトトヒヾイ、

十一月	五八〇八〇〇〇弗
十二月	六五四六〇〇〇弗
輸出	
（前年度十二月）	
十一月	八三五五六〇〇〇弗）
十二月	一〇四二一〇〇〇弗
輸入	一〇六一五〇〇〇弗
英	
（前年度十二月）	二六八四三〇〇〇弗）
十一月	二六四三六〇〇〇弗
十二月	二三六一六〇〇〇弗
輸出	
（前年度十二月）	六五六〇〇〇弗）

（前年度十二月分）

其他	三八二二〇〇〇弗）
國別	
英領各地	一〇〇二六〇〇〇弗
歐洲各國	四七三三〇〇〇弗
蘭印	一三五三二〇〇〇弗
其他	一六七三七〇〇〇弗
	一一六八一〇〇〇弗
	三一〇七〇〇〇弗
	一八八三〇〇〇弗

英米よりの輸入增加は日本品ボイコットに因り必需品の餘儀なき增加である、日本品の輸入減と共に支那製品の輸入途絕（生產地の破壞亦は日本軍の占領による支那生產工業の停止）は英米商品によつて漁夫の利を得せしめた。然し此現象は自然的でない、變則的のものであるから、事變解決迄である、其後に招來されるものは、事變前より以上の日本商品の一大躍進であり、英國のオ

ツタワ會議の議定の改變とならなければならない。我等日本商品市場への要求はそこ迄進む可きである。

一九三六年度馬來亞輸出入總額十一億五千百六十六萬八千弗に對し一九三七年度は十六億〇三百五十五萬七千弗となり、實に四億五千百八十八萬九千弗の激增を示し、一九二九年度ブーム好況以來の躍進であつた。

十二月中輸出入の類別統計を示せば

輸入

	總額
一、食糧、飲料、煙草類	
仕出國	二、六一二、〇〇〇弗
英國	三、七九九、〇〇〇弗
英領各地	五四三、〇〇〇弗
歐洲各國	

あるが、事變前までは以上の日本商品の一大顧客であつた英國、事變勃發以來相互に於ける貿易は著しく減少した。然し其後に於ける、事變の進展に伴ひ、日本の輸出額は次第に增加し、一九三六年度は自然的に英國を抜いて第一位となつた。然し其後に於ける、日本の輸出額の增加は日本品ボイコットの因を成す程の品目の輸入額（輸出）額の增加と共に支那製品の輸入額も著しく增加しつゝある。日本品の輸入額（輸出）額の增加と共に支那製品の輸入額も著しく增加しつゝある。

其他　一、八八三、〇〇〇弗
蘭印　一、三五三、〇〇〇弗
濠洲各國　四、三〇〇、〇〇〇弗
英領各地　一〇、〇二六、〇〇〇弗
別國　一、六八一、〇〇〇弗
其他（十二月分）　三、八二六、〇〇〇弗
（前年度十二月）

獨逸國	五四三〇〇〇弗
英領各地	三七七九〇〇〇弗
英國	二六一二〇〇〇弗
出國	總額

一、貨幣、紙幣、郵草類

輸入

十二月中輸出入の總額は情を示す如く

總額にて約。

一九二九年度に於ては一、一〇三、五四三、〇〇〇弗

一九三六年度に於ては十六億〇三百五十五萬十七弗となり、實に四億五百萬弗の增加を來したるものとなる。

一九三六年度に於ては輸出入總額十一億五千百六十六萬八千弗に對し

市場の要求は益々增大の傾向を示すものである。

日本商品の會社の出現は益々難

米國	三三五〇〇〇弗
日本	七八〇〇〇弗
蘭領東印度	二一二九〇〇〇弗
其他	四九八七〇〇〇弗
合計	一四四八三〇〇〇弗
十一月	一四八七〇〇〇弗
前年度十二月	一三九〇〇〇弗

二、部分品及原料類

仕出國	總額
英國	二七二〇〇〇弗
英領各地	三二六三〇〇〇弗
歐洲各國	八〇〇〇弗
米國	二九〇〇〇弗

米國	二八〇〇〇弗
獨逸各國	八〇〇〇弗
英領各地	三二六三〇〇〇弗
英國	二六〇〇〇弗
仕出國	總額

二、陪分品及別料類

前年度十二月	一三、二〇〇〇弗
十一月	一四八、四〇〇〇弗
合計	一四四、八三〇〇〇弗
其他	四、八〇〇〇弗
蘭領東印度	二一、二〇〇〇弗
日本	八〇〇〇弗
米國	三三、五〇〇〇弗

日本	三四、七〇〇〇弗
蘭領東印度	五、二六八、〇〇〇弗
其他	四、六七九、〇〇〇弗
合計	一三、六六六、〇〇〇弗
十一月	一一、七九九、〇〇〇弗
前年度十二月	一三、九一三、〇〇〇弗

三、各種既製品類

仕出國	總額
英領各地	七、九四〇、〇〇〇弗
歐洲各國	二、六三四、〇〇〇弗
米國	三、一〇七、〇〇〇弗
日本	一、五〇八、〇〇〇弗
	一、四九三、〇〇〇弗

日本	一、四六三、〇〇〇弗
米國	一、五〇八、〇〇〇弗
瑞典谷國	三、一〇七、〇〇〇弗
英國谷國	二、六三四、〇〇〇弗
英領谷國	九、六四〇、〇〇〇弗
出口國	總額

三、谷蘇聯製品輸

前年度十二月	一、三一一、〇〇〇弗
十一月	一、一七九、〇〇〇弗
合計	一、三六六、〇〇〇弗
其他	四、六九九、〇〇〇弗
蘭領東印度	五、二六八、〇〇〇弗
日本	三四九、〇〇〇弗
蘭領東印度	五、二三三、〇〇〇弗
其他	一、九六七、〇〇〇弗
合計	二三、八八二、〇〇〇弗
十一月	二、六一六、〇〇〇弗
前年度十二月	一九、五〇一、〇〇〇弗

四、郵便小包による各種類

十二月	四五八、〇〇〇弗
十一月	五一六、〇〇〇弗
前年度十二月	四六九、〇〇〇弗

五、銀塊及銀貨

仕出國	總額
英國	九一、〇〇〇弗
英領各地	三三〇、〇〇〇弗

英領各地	三三〇〇〇弗
英國	八八〇〇〇弗
仕向國	輸出
米國及蘭領東印度	輸入
十二月前半週十二月	四六九〇〇弗
十一月	五一六〇〇弗
十二月	四五八〇〇弗
四半週小麻袋による谷蘭輸入	
前半週十二月	一九五〇〇弗
十一月	二六一〇〇弗
合計	二三八二〇〇弗
其他	八六〇〇弗
蘭領東印度	五二三〇〇弗

歐洲各國	一〇七五〇〇弗
蘭領東印度	九〇二〇〇弗
其他	一〇四〇〇弗
合計	二五〇二〇〇弗
十一月	一二八〇〇弗
前月	九六八〇〇弗

輸出

一、食糧、飲料、煙草類

仕向國	總額
英國	六二二〇〇弗
英領各地	二五〇七〇〇弗
歐洲各國	一三四〇〇弗
米國	五四〇〇弗
日本	一二〇〇弗

蘭領東印度	一、六三七、〇〇〇弗
其他	四三九、〇〇〇弗
合計	五、四〇五、〇〇〇弗
十一月	五、二〇三、〇〇〇弗
前年度十二月	五、〇九八、〇〇〇弗

二、原料類

	總額
仕向國	五、九一六、〇〇〇弗
英國	一、七七二、〇〇〇弗
英領各地	八、一七一、〇〇〇弗
歐洲各國	一六、二〇五、〇〇〇弗
米國	三、〇二五、〇〇〇弗
日本	一一二、〇〇〇弗
蘭領東印度	

日本	一二、〇〇〇弗
米國	五四、〇〇〇弗
爪哇各國	一三四、〇〇〇弗
英領各地	二五〇、〇〇〇弗
英國	六二、〇〇〇弗
仕向國	勝

二、食糧、飼料、原料類

鮮出	武六八、〇〇〇弗
前月	一、二二八、〇〇〇弗
十一月	二五〇、〇〇〇弗
合計	一〇四、〇〇〇弗
其他	武〇六、〇〇〇弗
蘭領東印度	一、〇、九五〇、〇〇〇弗
爪哇各國	

關東廳	一一二〇〇〇弗
日本	三〇二五〇〇〇弗
米國	一六二〇五〇〇〇弗
滿洲各國	八一一七〇〇〇弗
英領各地	一七七二〇〇〇弗
英國	五五一六〇〇〇弗
日向國	總額

二、東洋諸國

四半期十二月	五〇五八〇〇〇弗
十一月	五二〇三〇〇〇弗
合計	五四〇五〇〇〇弗
其他	四三八〇〇〇弗
關東廳	一六三七〇〇〇弗

其他	四四八〇〇〇弗
合計	三五六四九〇〇〇弗
十一月	三八二九二〇〇〇弗
前年度十二月	三二一一二〇〇〇弗

三、各種製品類

	總額
仕向國	一、三四三〇〇〇弗
英國	五、三八八〇〇〇弗
英領各地及香港	二、〇三三〇〇〇弗
歐洲各國	七、二五八〇〇〇弗
米國	二、〇一六〇〇〇弗
日本	一、三三九〇〇〇弗
蘭領東印度	九九八〇〇〇弗
其他	

其他	二六八〇〇〇弗
蘭領東印度	一七三三六〇〇〇弗
日本	二〇一六〇〇〇弗
米國	一二五八〇〇〇弗
獨逸國	二〇三三〇〇〇弗
英領各地	五三八八〇〇〇弗
英國	一三四三〇〇〇弗
仏蘭西國	總額

三、各種雜品類

前年度十二月	三一一二〇〇〇弗
十一月	三八二六〇〇〇弗
合計	三五六四〇〇〇弗
其他	四四八〇〇〇弗
合計	二〇三七五〇〇〇弗
十一月	一七七〇七〇〇〇弗
前年度十二月	二一六三三〇〇〇弗

四、郵便小包による各種類

十二月	一八四〇〇〇弗
十一月	二二二〇〇〇弗
前年度十二月	一七八〇〇〇弗

五、銀塊及銀盾

仏蘭西國	六六〇〇〇弗
英領各地	二〇九四〇〇〇弗
蘭領東印度	三九〇〇〇弗
其他	總額

合計	二、一九九、〇〇〇弗
十一月	九二九、〇〇〇弗
前年度十二月	四七九、〇〇〇弗

護謨

一九三八年度の護謨界は第一四半期より第二四半期の前半を最好況として漸次下押の一途を辿り、日支事變の發生、歐洲政局の不安米國產業界の動態に主要原因を置いて、遂に光明を見ることなくして下落不況の中に終つた、

然し業界は米國に於ける反トラスト立法問題の解決と英米を主とする世界再軍擴の嵐に乘つて一九三八年の好況を期待してゐるものと見られるが目下思惑筋の活動も、工場側の大量購買も行はれそうにない。十一月中世界吸收量七萬五千噸の數字が改善されないなら

其他	一
蘭領東印度	三五〇〇〇弗
英領各地	二〇五四〇〇〇弗
英領合計	六六〇〇〇弗
出向國	
英領興亞領	
前年度十二月	一五八〇〇〇弗
十一月	二二二〇〇〇弗
十二月	一八四〇〇〇弗
四、種別小口別による各輸入	
前年度十二月	二、六三三〇〇〇弗
十一月	一、五四〇〇〇弗
合計	二、〇三五〇〇〇弗

ば、現在の割當が尙多きに過ぎると云はれる、護謨價の上昇、業界の光明は、米國の消費量が增大するか、割當を六割二分五厘（一九三八年第一四半期割當は七割）に切り下げられるかしない限り、不況は依然として續けられると大手筋は見てゐる。

十二月に於ける馬來亞の輸出高（船送）は五萬六千七百九十一噸にして前月の五萬七千八百五十噸に比して千噸餘の減少であつた。（一九三六年度十二月は三萬八千七百四十九噸）

輸出

國別	總額
英國	八、四二四噸
英領各地	一、八三五〃
歐洲各國	一二、六六二〃
米國	二九、〇〇〇〃

國別	輸入額
米國	一、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
蘭領東印度	一、二六六、二〇〇〇〇〇
英領海峽植民地	一、八三五、〇〇〇〇〇〇
英國	八四二、四〇〇〇〇〇

輸出	
其他	四、八七〇〇〇〇〇〇
合計	五六、七九一、〇〇〇〇〇〇
一九三七年度輸出總額	六八一、六三八、〇〇〇〇〇〇
一九三六年度輸出總額	五二〇、一四二、〇〇〇〇〇〇

十二月馬來亞生產額　四萬九千四百五十八噸

一九三八年度生產總額	四九二、七五四、〇〇〇〇〇〇
仝年度割當	四九三、二八七、〇〇〇〇〇〇
生產不足	五三三、〇〇〇〇〇〇

十二月中に於ける領外護謨輸入

國別	輸入額
スマトラ	五、一二一、〇〇〇〇〇〇
蘭領ボルネオ	一、五五〇、〇〇〇〇〇〇
爪哇	一、六二、〇〇〇〇〇〇
ブルネイ	一、三四、〇〇〇〇〇〇

ビルマ	七八七噸
佛領印度支那	五二五〃
英領ボルネオ	三四三〃
サラワック	三、一五八〃
シヤム	二、一五九〃
其他	一三、九四九〃
合計	一、九三七年度外領ゴム輸入統計
一月	一六、九五六噸
二月	一四、〇四八〃
三月	一九、五七九〃
四月	一七、一三六〃
五月	一七、三五〇〃
六月	二三、六一四〃

六月	二、六一四〇〇〇〇〇	〃
五月	一、九三五〇〇〇〇〇	〃
四月	一、九一五六〇〇〇〇	〃
三月	一、九五四〇〇〇〇〇	〃
二月	一、四〇四八〇〇〇〇	〃
一月	一、六九五六〇〇〇〇	〃
一九三七年度輸入総指数		
合計	一、五四四〇〇〇〇〇	〃
其他	一、五四四〇〇〇〇〇	〃
ビルマ	一〇〇〇〇〇〇〇	〃
シャム	二、一五六〇〇〇〇〇	〃
英領ボルネオ	一、一五八〇〇〇〇〇	〃
蘭領東印度諸島	三四三〇〇〇〇〇	〃
ベルギー	五二五〇〇〇〇〇	〃
仏領印度支那	一八四〇〇〇〇〇	〃

七月	二六、一〇〇〇	〃
八月	二八、三九五〇〇〇	〃
九月	一九、〇六五〇〇〇	〃
十月	一八、八五八〇〇〇	〃
十一月	一二、三九六〇〇〇	〃
十二月	一三、九四九〇〇〇	〃
合計	二一三、四四六〇〇〇	〃
一九三六年度輸入総指数	一六七、七九九〇〇〇	〃

十二月中ゴム相場

シンガポール

十二月上旬　現物　二五仙八分三　先物　二六仙四分一

十二月下旬　二二仙八分五　二三仙八分一

ロンドン　現物　七片二分一　六片八分七
先物　七片十六分十一　七片一六分一

ニューヨーク　現物　十五仙十六分三　一四仙一六分五
先物　十五仙十六分九　一四仙八分五

錫

新春を前に若干の上昇好調來の聲に市場の活動が豫想されてゐたが、依然とし東方の戰爭と國際政局の不安は樂觀を許さず、新嘉坡市場も十二月九十六弗七十五仙にて入り、年來八十九弗五十仙と漸落に納めた。一九三八年度に各業者は期待を持してゐるが、錫及護謨はその消費國の大宗たる米國の動向如何に懸つてゐる、

先物	二六弗四分一	二三仙八分一
現物	二五弗八分三	二二仙八分五
十二月上旬		十二月下旬
ハンボルンゴ		
十二月中ヒル相場		
一九三六年度		
合情		
十二月	一六弗七分五	一四仙七分五
十一月	二一弗四四六	〃
十月	一三弗四四	〃
九月	一二弗三六	〃
八月	一一弗八五八	〃
七月	一〇弗六五	〃
	二一弗三五	〃
	二六弗一〇〇	〃

自然一九三七年度第二四半期以降に於ける米國の消費減は錫市場を釘づけにして引づつた。

馬來亞十二月分生產高は八千九百四十二噸にして十一月分の五千八百三十六噸に比して非常な增加を示した、加ふに外領錫の輸入三千百八十七噸之れも十一月分の二千二百八十七噸に比して約千噸弱の增加であつたが、輸出（船送高）は七千八百十一噸に過ぎなかつた。

十二月各地の生產高

地名	生產額
馬來亞聯邦州	八、六九七噸
ジョホール州	九九〃
ケダ州	三九〃
ペルリス州	六二〃
ケランタン州	六〃

〃	六	〃
〃	六二	〃
〃	三	〃
〃	六	〃
〃	八六	〃
〃	八六	〃
〃	八

九月　八、四四五噸
十月　五、二四八〃
十一月　五、八三六〃
十二月　八、九四二〃
合計　七七、五四二〃
一九三六年度　六六、八〇六〃

十二月中外領よりの輸入

輸入額

國別	
ビルマ	三四二噸
佛領印度支那	二六九〃
日本	九一〃
シヤム	二、四三九〃
タンガニカ	四〃

南阿聯邦	三二噸
支那	九〃
合計	三、一八七噸

一九三七年度外領錫輸入統計

月別	輸入額
一月	二、六八四噸
二月	二、三八三〃
三月	二、五五三〃
四月	二、五五二〃
五月	二、〇〇五〃
六月	二、五〇四〃
七月	三、〇八二〃

ポルトガル	四〃
イタリア	二四三〃
日本	八一〃
滿洲國	二六八〃
支那	三四二〃

錫輸入國

十二月中外國より錫輸入

一九三六年度

合計	六六八〇六〃
十二月	四五四二〃
十一月	八八四二〃
十月	五八三六〃
九月	五二八八〃
八月	八四四五噸

八月	二、八二一噸
九月	二、七三七〃
十月	二、六七四〃
十一月	二、二八七〃
十二月	三、一八七〃
合計	三一、一六九〃
一九三六年度	二六、九三八〃

十二月輸出

別	輸出額
國	一、九八四噸
米國	一、九七六〃
英國	八二六〃
英領各地	五二一〃
歐洲各國	一、二〇八〃

十月	二、〇八二〃
五月	二、五〇四〃
六月	二、〇〇五〃
四月	二、五五二〃
三月	二、五五三〃
二月	二、三八三〃
一月	二、六八四〃
總計	二、八〇八人

一九三十年度輸入錄情

合計	二、一八七噸
支那	北〃
南洋諸國	三二〃

日本	五二五噸	
其他	四二〃	
合計	七八一一〃	

十二月中錫相場

	上旬	下旬
シンガポール		
現物	九六弗七五仙	八九弗五〇仙
先物	〃	〃
ロンドン		
現物	一九八磅	一八二磅五志
先物	一九七磅	一八二磅五志
ニューヨーク		
現物	四四仙四分三	四一仙八分一
先物	〃	〃

紐約各種	一八二〇八〃	
英蘭各銀	五二一〃	
英國	八二六〃	
米國	四六八八〃	
獨逸	鮮出藤	
十二月鮮出		
一九二六年第	二六八三八〃	
合計	三一一六八〃	
十二月	三一八五〃	
十一月	三二八五〃	
十月	三六五四〃	
九月	三五三五〃	
八月	三八二一〃	

東京帝國大學圖書館藏

一二、八、八

新嘉坡情報

北支事變に因る最初の邦品ボイコット。新嘉坡茶業公會八月六日午後八時決議

決議文

蘆溝橋事件爆發の後、海外華僑等しく義憤、國家の爲めに効勞を願ふと雖も、親しく干戈を執りて起てず、以て社稷を衞り傷兵難民救濟の責めに任じ、則均未敢旁貨、捐賑の聲南島に瀰漫し、一片の熱誠は良く欽慰するに足る。然して國難嚴重の因に刺戟され國貨提倡の聲浪益高張し、本坡各業團体に對し聯合行動を徵求して專售國產貨物の議を決す。當茶商公會亦茲に八月六日午後七時會員大會を召開して討議したる結果、國產茶葉推銷を議決し、臺灣茶商公所に架電卽日臺灣茶の取引を停止す。

右に因つて臺灣茶の輸入は困難となりたるも、打擊を受けるもの三

井物產の他は大影響なし。然し一般華商は契約を控へてゐる爲め商取引極めて閑散、當地ゴム（ゴムチヤネスタイー）に集唯鳴を生じ本雜貨に據る據ロンドン相場は再三暴騰を生じ、目下の處未レツ市況は引續平靜。

八月八日

後報によれば十二日上海邦品の指令が發せられたの排日貨に關して華僑各方面より操作を扱はさる一部商人と共產色を帶びたもの如き程度少數の日本商品を中心とする海南島人が强硬にボイコットを煽動するのみにして大部の華商は事變の擴大に伴ふ日貨取引停止を恐れて居る。當地華僑總商會の意見は指令を發して迄排日貨强行は現在の情勢下に於ては出售日貨に關しては各商號の自由唯國難の際國貨の發售を提倡し、

蘭領東印度

一二、八、八

北支產業團の品目の準備品目六月中公表

蘭印政廳は北支產業公會八月六日中公表の準備品目を決定した。

公會は蘭印側の要望に應じ、蘭印產業團の品目決定を行ふ。

蘭印の對支輸入

蘭印政廳は對支輸入の品目を決定した。

蘭印政廳は對支輸入の品目を決定した。

蘭印政廳は對支輸入の品目を決定した。

意志に任せず決してこれに干渉しない」と、
然し相當先物取引停止令に上り邦商間に打撃を受けてるものもある。

動國鐵の綿國貨の愛用者の意見則は計令さ綿人ン力協議の自由
商均準擬の鐵大ン物は名日貨邦日貨項は力強邦日貨項は力ンと
ゴ大な藤商品人な藤項ンキュ評の評業で大ン力ンと
ンダ決ゴる芽項ゴ人ントンキュ評の評業で大ン力ンと
紙日貨ン關ン力華劉ゴ日本商品ゴ面ゴ
終業ンゴ紙日ゴ紙ゴ力ゴ業ゴ紙ゴ力ゴ業ゴ紙ゴ力ゴ業

後人俳聖芭蕉翁の事蹟を尋ねて遠く此地に来り、
意志を社会化し、ひろく千載に伝へんとする。

P-11-a

昭和拾貳年七月拾一日

和蘭、蘭領東印度間の交通發達小史

「一九三七年六月十八日バタビヤ通信」

歐洲の一小國和蘭が一七五〇年の頃より海洋發展に乘り出して既に二百年、西班牙、葡萄牙の兩先雄國を壓して、百九十萬五千三百四十六平方キロメートルの廣袤と人口六千萬餘の寶庫東印度諸島を領有して南海に雄を誇つてゐる。

海運交通にはK・P・M汽船會社並に爪哇、支那日本線航汽船會社の二社毎年二十八萬噸餘の貨物を載運し、陸上交通には七萬餘台の自動車、國有鐵道四千五百六十一哩を有し、亦航空交通に於いて、皇國和蘭航空會社及皇國蘭印航空會社の二社ありて、前者は旅客五機を有し、後者は旅客機十三機を所有し全蘭及新嘉坡經由和蘭本國への航空路六千〇九十一哩を開拓してゐる（一九三五年度）

農產物年產三千萬盾、鑛產八百三十萬九千噸を有するこの東印度諸

島は和蘭の寶庫たるのみならず世界の一大市場である。

一七五〇年の交には汽船の發明無く、和蘭、東印度間の交通は帆船によつて百八十日實に六ヶ月を要した、一八〇〇年頃より漸次改良されて百三十五日内外となつた、一八七〇年汽船の就航と共に逐次短縮されて四十日となつた、世界文化の進運とともに汽船の加速的進歩によつて一九三七年現在は所要日數二十一日に短縮された。

一九三〇年皇國蘭印航空會社が和蘭、蘭印間航空路開始の當初に於いては十一日を要した、汽船の航程を短縮すること十日、和蘭本國及蘭印當局は爾來鋭意航空事業の改革擴充を圖り、新機の購入によつて航程の短縮を計り、一九三四年に至りて和蘭、蘭印間九日にて飛來するの進歩をなした。

然るに和蘭は太平洋の波崎緊急なると、各國殖民地の積極的軍備の強化をなしつゝある現下の情勢は全南洋群島の九〇％を占める蘭領東印度の防備強化工作の必要に追はれ大規模の國防義損を募集し

豊富な資源を有する蘭印は、人口六千萬、面積八百三十萬方粁、輸送八百三十萬トンの東印度諸島の〈一九三五年現在〉

皇國蘭印航空會社及皇國蘭印航空會社の二社をもつて、南洋方面の自動車、國有鐵道四千五百六十一粁を有し、本邦交通に次ぐ、

の二社十二萬八千粁の貨物を運搬し、生産物の輸送、郵便交通に大貢献

K・P・M汽船會社並に蘭印、支那日本船舶汽船會

南洋諸島

蘭印、蘭領東印度間の交通發達小史

東印度の産業の工業化は大戰の與つて力あるものであつて、東亞經濟圏の確立を目指す日本にとつては必要な事である。

「蘭印の工業化は第一次世界大戰の影響を受けて著しく進展した。即ち一九〇七年に蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーであつたのが、一九二四年に至つては、蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

蘭印の工業化は、一九三四年に至つて蘭印の輸入額は二億五千万ギルダーに達した。即ち蘭印は輸入額の減少、輸出の増加、即ち貿易の入超から出超に轉じたのである。

陸海空軍預算外に、和蘭、蘭印間の航空事業の一層の進展と完璧を期し、英國航空會社との連絡の外更らに高速度飛行を計劃し有事の日に備へんとしつゝあつた、一九三七年度に入りて新鋭機を加へ、和蘭アムステルダムよりバタビヤ迄五日半に飛來するに至つた、汽船も亦最優秀船を配置して十六日半の航程に短縮した。

次に一七五〇年より一九三七年に至る和蘭、蘭領東印度間の交通速度を示せば。

一七五〇年	舊式大型帆船	一八〇日
一八〇〇年	改良大型帆船	一三五日
一八七〇年	初期汽船	四〇日
一九三七年	現代大汽船	二一日
一九三〇年	初期飛行機	一一日
一九三四年	第二期飛行機	九日
一九三七年	最新鋭飛行機	五日半

鮮銀空軍班員の一團の歸國の報に接し、確固、確實の報

日以降、英國海軍空會議の代表の報に接し、確實の報

日以降、英國海軍空會議の代表の報に接し、確實の報

日以降、英國海軍空會議の代表の報に接し

南情第34號

南洋情報

昭和拾貳年七月廿參日

蘭領東印度砂糖輸出統計

「一九三七年度一月より五月に至る五ケ月間」

今年度に入りて爪哇糖頗る活況を呈し一月分輸出三十萬五千百四十一噸の巨額に達した（一九三六年一月十四萬四千百五十六噸）。二月に至り激減を示し四萬八千七百三十一噸となり（一九三六年二月四萬七千三百六十七噸）、三月五萬七千三百三十五噸（一九三六年三月十萬六千百六十九噸）、四月六萬三千五百九十噸（一九三六年四月七萬六千八百四十二噸）、五月に入り再び活況をみせ十三萬四千二百〇一噸（一九三六年五月十萬〇八百〇九噸）となつた。五ケ月間の輸出總額六十萬八千九百九十八噸となり前年同期の四十七萬五千三百四十噸に比較して非常の増加である。

次に各月分輸出表を示せば

月別	耕地糖	赤糖	其他
一月	二一八、六三一頓	八二、九九四頓	三、五一六頓
二月	一九、五九〇	二九、一四一	― ― ― ―
三月	二二、四二〇	三四、四一〇	五〇五
四月	三七、一五七	二六、四三三	― ― ― ―
五月	七一、八二四	四七、四四九	一四、九二八
計	三六九、六二二	二二〇、四二七	一八、九四九

年	月	日	時	干支	干支	干支	干支
一	一	一	一	戊子	戊子	戊子	戊子
一	一	一	二	己丑	己丑	己丑	己丑
一	一	一	三	庚寅	庚寅	庚寅	庚寅
一	一	一	四	辛卯	辛卯	辛卯	辛卯
一	一	一	五	壬辰	壬辰	壬辰	壬辰
一	一	一	六	癸巳	癸巳	癸巳	癸巳
一	一	一	七	甲午	甲午	甲午	甲午
一	一	一	八	乙未	乙未	乙未	乙未
一	一	一	九	丙申	丙申	丙申	丙申
一	一	一	十	丁酉	丁酉	丁酉	丁酉
一	一	一	十一	戊戌	戊戌	戊戌	戊戌
一	一	一	十二	己亥	己亥	己亥	己亥
一	一	二	一	庚子	庚子	庚子	庚子
一	一	二	二	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑
一	一	二	三	壬寅	壬寅	壬寅	壬寅
一	一	二	四	癸卯	癸卯	癸卯	癸卯
一	一	二	五	甲辰	甲辰	甲辰	甲辰
一	一	二	六	乙巳	乙巳	乙巳	乙巳
一	一	二	七	丙午	丙午	丙午	丙午
一	一	二	八	丁未	丁未	丁未	丁未
一	一	二	九	戊申	戊申	戊申	戊申
一	一	二	十	己酉	己酉	己酉	己酉
一	一	二	十一	庚戌	庚戌	庚戌	庚戌
一	一	二	十二	辛亥	辛亥	辛亥	辛亥
一	一	三	一	壬子	壬子	壬子	壬子
一	一	三	二	癸丑	癸丑	癸丑	癸丑
一	一	三	三	甲寅	甲寅	甲寅	甲寅
一	一	三	四	乙卯	乙卯	乙卯	乙卯
一	一	三	五	丙辰	丙辰	丙辰	丙辰
一	一	三	六	丁巳	丁巳	丁巳	丁巳
一	一	三	七	戊午	戊午	戊午	戊午
一	一	三	八	己未	己未	己未	己未
一	一	三	九	庚申	庚申	庚申	庚申
一	一	三	十	辛酉	辛酉	辛酉	辛酉
一	一	三	十一	壬戌	壬戌	壬戌	壬戌
一	一	三	十二	癸亥	癸亥	癸亥	癸亥

p-11-a

南情第127號

新嘉坡情報

十三、一、二四

輸出稅附加徵收

蘭領東印度政府は土產貨物輸出に對し一パーセントの附加稅を一九三八年二月二十五日より徵收する旨發表した。

此の附加稅年收八百萬盾の予算、これを蘭印防備費に使途すると」。

東亞經濟調査局　弘報課

緒言

滿洲の田畑

國際連盟調査委員會報告書

三八年十二月二十五日より滿洲に於ける平均の田畑の千分、

北一輝氏の滿洲のトンチンカン一人滿鐵田藤命重氏の滿洲の。

四二、一、一、三十

59-HAA